

# 図書だより 1月号

今年も  
よろしく!!

正月の「正」の字には「ただしい」という意味のほか、「あ  
らたまる」という意味もあります。ですから「正月」とは年  
があらたまつた月、1年の最初の月ということになります。新  
しい年が、みなさんにとってよい年でありますように。



さて、3学期が始まりました。6年生にとっては、小学校生活最後の3ヶ月。  
いつまでも心に残るような本に出会えるように、たくさん図書室に来て欲しいと思いま  
す。



## 2021年の干支は…うし

新年を告げる動物として、毎年その年の動物が存在します。

12種類の動物がいて、その12の動物たちのことを、『干支』と呼びます。そして、  
今年の干支は…『うし』です。十二支にまつわる本を紹介します。

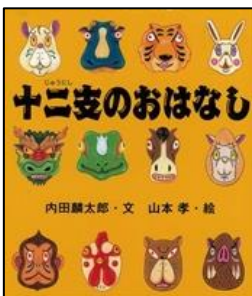


### 『十二支のどうぶつ小噺』川端 誠・作 (913)



二人の子どもが落語家さんに「小噺」について聞いています。「何かネタを出して  
ごらん」という落語家さんに、「では十二支の動物でやってみてください」とネタを  
ふります。落語家さんは、「ねずみ」から「イノシシ」までを使って、小噺を披露し  
ます。十二支の名前や泣き声などを、言葉巧みに噺に組み入れて、見事なオチで  
クスッと笑えます。新年初笑いにおすすめの絵本です!

### 『十二支のおはなし』内田 麟太郎・作 (913)



年の暮れに、神さまが言いました。「新年のごあいさつにきなさい。はやいものから  
順に十二番目まで、一年間ずつその年の大將にしてあげよう」  
動物たちは大喜び。さてさて、だれがどの順番になるのか???あれ?十二支の  
動物以外の動物もいるみたい。何度読んでもおもしろい「ともだちや」シリーズで  
人気の、内田麟太郎さんの絵本です。

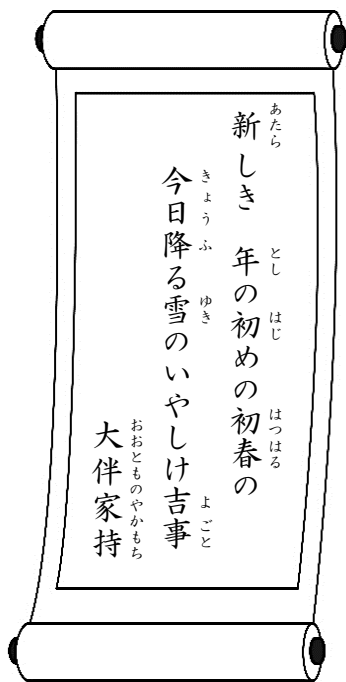
他にも、お正月に関する本のコーナーを準備しています。

おうちの人と一緒に読むのもいいですね♪





## 2021年のはじまりに…



あたらし  
 新しい年の初めの初春の  
 今日降る雪のいやしけ吉事  
 おおとものやかもち  
 大伴家持

この短歌は、奈良時代の歌人・大伴家持によって詠まれた歌です。  
 家持は、万葉集（日本に残っている文学作品の中で、もっとも昔にできた歌集）  
 の作成にもかかわっていて、この短歌は、数々の有名な和歌を残している家持が  
 最後に詠んだ歌といわれています。

【意味】新しい年の初め、初春の降る雪のように、  
 よい事もたくさん積もっておくれ

当時、新年に降る雪は縁起がよいとされていました。  
 このことから、縁起のよい雪と同じように、良い事も  
 たくさん降りかかってきますように、という願いをこめた歌なのでしょう。



・・・雪が降るのも、悪くはないですね♪



さがしています!!!

本の点検をした結果、行方不明になっている本が  
 あり、中でもこの2冊は、2学期に貸出を開始した  
 ばかりの新しい本です。

みなさん、身近なところを、探してみてください。



ご協力よろしく  
 おねがいます!



## みんな知ってる?

～ クラスかしたし ～

授業で図書室の本を使うときに、【クラス貸出】ができます。

クラス貸出をすると…

- ① 1週間以上借りることができる! 授業で使い終わったら返却。
- ② クラス貸出の本とは別に、自分の読みたい本も借りられる!

★クラス貸出を利用する時は、その本を借りる時にカウンターで  
 「クラス貸出の本です」といみましょう。



おしらせ

★「プラス1さつけん」  
 「しおりひきかえけん」を  
 もっている人は、  
 必ず3学期中につかいます。  
 学年があがったら使えません。